

IJU 応援団だより

田舎暮らしのみちしるべ

IJU 応援団事務局
岩国市今津町 1-14-51
岩国市政策企画課内
電話 0827-29-5012

第 15 号
平成 22 年 4 月 1 日発行

E-mail chiki@city.iwakuni.yamaguchi.jp

“IJU 応援団だより”では、IJU 応援団のみなさんの活動内容を掲載しています。

今回は、^{さとやま}里山^{むら}ひよじ村です！！

+++++



周東町榎余地地域ってどんなところ？

周東町榎余地地区は、人口 99 人、世帯数 52 戸(平成 22.2.1 現在)で周東町の北部に位置する豊かな山に囲まれた地域です。都会からの若者の新規就農の手助けをするなど、I ターン事業にも積極的に協力しています。

メダカの住むきれいな水、牛の放牧されている豊かな大地。ほのぼのとしていてどこか懐かしい風景。そんな里山の自然再生にも地域のみんなで取り組んでいます。

+++++

～↓↓里山ひよじ村からのメッセージです↓↓～

地方の時代、地域の活力といった気運は農業関係では朝市・直販所の賑わいによっても知ることができます。しかし里山ひよじ村では、近代農法がもたらした食物への不安、自然環境(里山の自然)の崩壊の再生こそが地域の活性化でなくてはならないと考えています。地域活性化とは、自然と共に生きる有機農法によって、農家と街の人の食の安全・安心・自給自足を目指し、実現できるものと思っています。その実現のために、有機農業を志す新規就農の若者との出会いが始まりました。

私たちは物質的豊かさと引替えに、多くの大切なものを失ってきました。というより、忘れてしまいました。その一つは自然です。次に中山間地域社会の崩壊です。その大切さに気付いて多くの支援・応援の活動に力を入れているとしても、さらに進行しているといえるでしょう。「村」社会は近代社会によって、その閉塞性から前近代的などと指摘され、「自立」「相互扶助」といったことを失い忘れられてしまいました。そしてさらなる崩壊に向かっていきます。私たちは有機農業生産者と消費者という地域を越えた共同体(相互扶助)として「村」を考え、再出発を考えようとしています。



～収穫祭(H17.11.23)～



収穫祭しゅうなん若者サポートステーションの若者まき割り作業



里山ひよじ村の唱「里山人歌」製作メンバー

○新規登録された応援団を紹介します！！

せ との うち じ ち かい
『瀬戸ノ内自治会(美和町瀬戸ノ内)』



「そこに住めばなにか
が起きる。」との受動的
な考えで転居するよ
り、そこに住んで何を
するのか、明確な目標
を持った方が良いと思
います。

○Iターン体験者を紹介します！！



藤野 完二さん

美和町釜ヶ原在住

平成 13 年広島からIターン

○Uターン体験者を紹介します！！

～ヤーコン植付け体験交流～



3/13 本郷町の特産販売施設

「山代の里」にて ↑

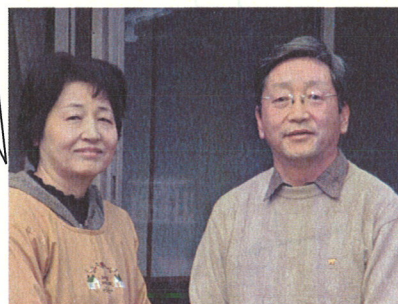


セツブンソウ

高さ 10cm ほど。花期は 2～3 月で直径 2cm
の白い花を咲かせる。花卉に見えるのは萼片
である。早春に芽を出し節分の頃に花を咲かせる
ことからついた。可憐な花は人気が高く、現在
は、乱獲や自生地環境破壊によって希少植物
になっている。(ウィキペディア (Wikipedia)
より)

4/1 前任の石高から引継ぎました、田村美奈子です。
応援団の応援団として頑張っていきますので、どうぞ
よろしくお願いいたします。

J・I ターンの方は、田舎暮らしへのあ
こがれや、農業への強い情熱があるこ
とで問題ないと思います。私の場合は
家庭の事情で、やや後ろ向きの動機な
ので、立派なことは言えません。但し、
事情が許すならば、離れて親を気遣う
より、思いきって帰ってみることが、
精神的な安定を得ることになります。



舞田 敏和さん

錦町野谷在住

平成 21 年 4 月広島からUターン

～和楽の里ジャガイモ植付け～



3/20(土) 農家民宿「和楽の里」で
オーナー制度を始めました。市内
外から親子連れが集まりジャガイ
モの植付け作業・交流会など楽し
みました。